

中小企業地域懇話会(平成25年度2回目)での意見等について

資料1

○県内6地域(振興局単位)で、地域の中小企業経営者等と商工労働部職員による意見交換を実施。

地域	対象市町村	開催日	参加企業数
北部	中津市、豊後高田市、宇佐市	10月18日	17
中部	大分市、臼杵市、津久見市、由布市	10月28日	20
東部	別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町	11月6日	15
豊肥	竹田市、豊後大野市	11月13日	13
西部	日田市、九重町、玖珠町	11月19日	15
南部	佐伯市	11月25日	19
		計	99

○主な意見等については下記のとおり。

【1】創業・事業承継について

項目		意見等
支援等について	セミナー等の開催について	<p>将来、事業を後継者に引き継ぐであろう現経営者にも、ある程度は事業承継のやり方等について勉強していただきたい。後継予定者である子などは、いろいろと講習を受けながら勉強しているので。</p> <p>承継を受ける者、承継する者それぞれ別々の講習会を開催して欲しい。その際、他人からいろいろと話をしてもらえれば、すんなりと受け入れられることもあり、承継がうまく進んでいくのではないかと思う。</p> <p>例えば現経営者の急死というようなことも企業は危機管理として認識しておかねばならない。そのため、若い経営者に対してそうした意識を持たせるセミナーや勉強会も必要である。</p> <p>事業承継については、承継までのことはよく考えるが承継後のことまでは気が回らない。事業承継後の出来事(体験談)を聴ける機会があったり、事業承継の手助けができる方がもつと良いと思う。</p> <p>創業初期はノウハウもなく苦労したので、専門的知識を得られるような支援をお願いしたい。</p>
	トータル的なサポートについて	<p>創業や事業承継にあたっての方法論は一人の力では及ばないことが多いので、県がトータル的にアドバイスしてくれるとありがたい。親の言うことは聞かなくても、他人の助言は聞くということがよくあるので。</p>
	事業承継の後押しについて	<p>事業承継は渡す側がよく考えて行うべきだが、なかなか勇気のあることでもある。その人の背中を押してくれる仕組みがあると事業の若返りや転換がより進むのではないか。</p>
	支援機関について	<p>先代が急死しバタバタと事業承継した際、商工会にいろいろと助けてもらった。こうした窓口を県としても大いに支えて欲しい。</p>
	人材の育成・確保について	<p>学校卒業時に創業や起業という選択肢を持つことはそうないのではないか。それ故、大学のカリキュラムにこうしたものを入れるなどで意識付けを行い、卒業時の選択肢を増やせばいいのではと思う。</p>
	情報提供について	<p>創業後に県の支援策を知ったので、「創業する際にはまず県にご相談を！」というようなPRをお願いしたい。</p>

項目	意見等	
その他意見等	後継者の存在について	後継者がいるといないとでは、お客さんの印象が全然違う。後継者がいるということは、事業の内容が安定してうまくいっているからだという印象を与え、ひいてはそれが事業を安定させていくことにつながる。
	第三者への承継について	第三者承継においては、現経営者の人望や技術をどのくらい他人である者が引き継いでいけるのかという問題があり、長年かけて税理士等のアドバイスも受けながら準備をしていくことが必要である。
	人の承継について	事業承継も難しいが、先代についてきた従業員を自分にもうまくついてきてもらうような「人の承継」も同様に難しいと感じている。
	魅力ある会社づくりについて	いずれ息子に代を譲っていかねばと思うが、会社に魅力がなければ子どもも受け継いでくれないと思う。
	新たな取組について	事業承継にあたり、子は親の反対のことをやりたがるなど必ず親子の葛藤がある。しかし、時代にあったやり方があるだろうし、新しい感覚を常に入れないと事業がうまくいかなくなると思う。
	創業時に必要な支援について	創業で問われるのは理系と文系のバランスであり、この両面でアドバイスを受けたり、多くの方の意見を聴くことが必要である。
	事業承継時の仲介的機関について	事業承継を親子だけで進めると難しい。(公的な)仲介的機関があると、代表者がまだ現役の時に事業を引き継ぐことができ、その後もスムーズに事業を行うことができるのではないか。
	相談窓口について	仕事柄、創業の方法などの相談を受けることがあるが、「どこに相談すれば良いのかよくわからない」という声もよく耳にする。

【2】女性の活用について

	項目	意見等
支援等について	女性の実力を活かした活用について	本県には元気な女性が多いと感じているが、雇用されている女性は実力を十分できていないと思う。実力のある女性が活躍していける施策をお願いしたい。
	再就職支援について	これからは出産等で一度はリタイアした女性が正社員として再び脚光を浴び、日本経済の源泉とならなければならない。そのため、リターン就職への支援施策を真剣に考えて欲しい。
	人とのつながりが持てる場について	今は女性にとってチャンスの時期だが、人とのつながりがなくては事業継続が困難であり、活躍の場が増やせるような企画や支援をお願いしたい。
	対策の検討について	オリジナルの施策を考えるより、女性の社会進出に関して先進国である国々の事例をよく研究した方が、国や地方の役割等もわかって良いのではないか。
	広報について	企業が女性を活用しようと思っても、顧客から女性ではダメだと言われれば受けるしかない。やはり、行政が戦略的に広報していくしかないのではと思う。
その他意見等	女性の特性について	女性は待遇面のみでなく、心(気持ち)で動く面がある。また、潜在能力も多く備わっていると思うので、外に出て活躍できる環境や子育て後等に再就職しやすい環境を多く作って欲しい。
	女性のスキルアップについて	女性でもどんどん技能士等の資格を取り技術を磨いていけば、県も活性化するのではないかと思う。
	女性の労働力について	今後、団塊の世代がリタイアしていくことになると、それを補う労働力としても女性の活用は避けては通れない話になるとつくづく感じる。
	女性に対する意識について	「女性なのだから黙っておけ」という考えがまだまだある。女性の意見や発想を大事にすべきだと考える。

【3】県の施策について

	項目	意見等
	500社企業訪問について	非常に良い取組だが、訪問の際に施策ニーズ(こんな施策があった方が良い)も聴いてはどうか。多くの施策を作っても使いづらいこともあると思うので、是非、企業の意見を反映して欲しい。
	経営革新について	素晴らしい制度であるが、経営のプロである社長ではなく、事業を承継する者がメインになって行う方が、より一層事業承継が進むのではないかと思う。
	販路開拓について	商工会と漁業者、農業者が連携していこうとしているが、物は作るが販路がない、販売する場所がないということが共通の問題意識である。
	補助金のあり方について	品評会を行い、優秀なものに対して補助金を出すというやり方に見直すべき。そうすれば高品質で売れる商品作りに一人一人が考えるようになるのではないか。
	やる気を出せる環境の整備について	やる気のある人に対して、その気持ちを高めたり維持できるような環境整備をお願いしたい。
	大学生の活用について	積極的に大学と連携して商店街の活性化事業に関わってもらったり、空き店舗を活用した創業を考えるなど、何かの形で大学生の力を貸してもらうことを検討してはどうか。
	情報提供について	どんな施策があるのかがよくわからないので、何かをしたい時に参考にできる施策一覧の作成をお願いしたい。 補助金等の支援制度が末端の企業にまで届く仕組みをお願いしたい。

【4】その他意見等

項目	意見等
懇話会について	会議自体に唐突感があり、話しづらい感じがする。例えばテーマごとに少人数の班を作って議論し、最後に全体会の中で議論したことを各班から発表する形で開催してはどうか。和気あいあいと話ができるよう検討して欲しい。
	県が受け身で話を聴いている感じだったので、もっと聴きたいことを参加者に振って、参加者から話を引き出すようにすれば良いのではないかと思う。
	今回のように県や市町村の方と話をする機会を設けてくれると、企業としても県などがいつも応援してくれていると感じられ、たいへん心強い。目に見える形での行政のバックアップをお願いしたい。
	今までは県庁は敷居が高いところだと思っていたが、懇話会に参加してみてそうではないことがわかった。
	県から地域に来てくれるのはありがたいが、経営者の視点から見ればコストをかけすぎている印象。
意見を聴取する機会について	商工会の青年部や女性部ではたびたび夜なべ談義的な会議を行っているので、そうした会議にも出席いただいて悩みなどを聴いて欲しい。
各市町村における振興条例制定について	どうしたら自分の地域の中小企業が生き残っていけるのか、どうしたら地域を活性化していけるのか各地域で考えていくためにも、県がバックアップして各市町村で振興条例を制定すべきだと思う。
高齢者の活用について	元気な高齢者を働かせることが大事。何事においても年齢制限を撤廃し、元気な人が生き生きと働ける社会にして欲しい。
人口減少社会への対策について	人口減問題については企業で努力してもしょうがないことであり、国、県、市町村といった行政機関を含めて、皆で取り組んでいく必要がある。